

【目次】

1. 平成26年度春の例会(己斐断層見学会)の開催状況について
2. 広島大学知的人材育成センターの教育・研究プロジェクト事業の公募に、本会から申請した「広島大学マスターズ社会連携講座」が採択された経緯について
3. 「広島大学マスターズ社会連携講座」の開設方針について

1. 平成26年度春の例会(己斐断層見学会)の開催状況について

本会では、平成26年度春の例会を次のとおり開催しました。

日時:平成26年4月26日(土) 10:00-12:00

場所:己斐断層(広島市西区己斐上5丁目地区)

対象:本会の会員(ご家族・友人同伴可)



春の例会(己斐断層見学会)の参加者全員での記念写真

今回の春の例会(己斐断層見学会)は、3月に伊予灘で発生した地震の直後に例会の開催案内を出した関係だと思いましたが、会員14名、同伴家族・友人9名と合わせて23名と盛況でした。ご案内いただいた元文学研究科教授の中田高先生の分かりやすいご説明に加えて、天気にも恵まれて、大変楽しく勉強させていただきました。

中田先生のご説明によると、己斐断層は1980年に活断層と認定された断層で、比較的規模の小さい活断層ですが、周辺の住宅地化が進み、災害ポテンシャルが高くなった断層とのことでした。

断層は各地にあるとのことですが、活断層かどうかは大きな穴を掘ってみないと分からないとのこと。お医者さんも顔を見ればすぐ病気と分かる場合もありますが、顔を見ただけではよくわからないときは検査を出して確認されるように、活断層も穴を掘ってみないと分からない場合が多いとのこと。

己斐地区は団地が沢山ありますが、一見平坦な住宅団地でも、敷地の下に埋められた古い谷が存在しており、地震被害は地盤の弱い埋土部に集中しますが、最も被害の大きいところは切土・埋土の境界部のところとのこと。

近年、建物の耐震性が高まり、大きな揺れにも耐えるものが多くなりましたが、活断層の上に家を建てると地震で破壊されるので被害を避けることができません。活断層の近くに建物があっても、しっかりした地盤の上に建てれば大丈夫で、広島市旧市街地のような砂地や埋立地等の軟弱地盤の方がむしろ危ないとのこと。



己斐断層について説明中の中田先生



中田先生の説明に聞き入る参加者



トレンチを掘られた地点に移動



活断層の位置や地形の説明を聞く参加者

2. 広島大学知的人材育成センターの教育・研究プロジェクト事業の公募に、本会から申請した「広島大学マスターズ社会連携講座」が採択された経緯について

広島大学では、東千田キャンパスの機能の充実を図ることを目的に設置される「広島地域国公立大学連携知的人材育成センター」において、他大学、産業界及び自治体等との連携による教育・研究プロジェクト事業を平成25年7月から11月末まで募集されているので、岡本哲治理事・副学長から構想を検討してほしいとの依頼があり、広島大学マスターズ広島は、東広島の広島大学マスターズと共同で、「広島大学マスターズ社会連携講座」を提案しました。

(1) 教育・研究プロジェクト事業の構想の検討

「広島大学マスターズ社会連携講座」は、広島大学を退職した広島市在住の「広島大学マスターズ広島」の会員と、東広島市在住の「広島大学マスターズ」の会員を合わせると専門分野の異なる約200名の会員を擁することで、社会人及び職業人を対象とした専門講座及び学際講座を開講し、地域社会の発展に資する人材育成を目標としました。

本会では、東広島の広島大学マスターズと共同でプロジェクト事業の提案を行うために、次のメンバーによる構想検討委員会を開催し、協議を重ねました。

【大学側】

岡本哲治理事・副学長（社会産学・広報・情報担当）

【広島大学マスターズ広島】

植木研介（代表幹事）

井上研二（副代表幹事）

渡邊一雄（前代表幹事）

三嶋 弘（TSS文化大学講座担当幹事）

山下英生（日韓留学生予備教育担当幹事）

松水征夫（総務・広報担当幹事）

【広島大学マスターズ】

渡部和彦（代表幹事）

原野 昇（副代表幹事）

金田 晋（前代表幹事）

岡本理事・副学長には、事業の提案者が学部長・研究科長・学内共同教育研究施設長・理事または副学長に限定されていたため、プロジェクトの提案責任者として構想検討委員会に加わっていただきました。

(2) 提案した具体的な事業の概要

【事業概要】

- 広島大学を退職した教職員のうち、広島市在住の「広島大学マスターズ広島」の会員と、東広島市在住の「広島大学マスターズ」の会員が連携して、社会人及び職業人を対象とした「学び直し」のための専門講座及び学際講座を開講する。
- 広島及び東広島のマスターズの会員は、広島大学を退職後、広島県内の他大学で教鞭をとっておられる方も多く、そうした会員のネットワークを広げて、広島地域を中心とする他大学との連携により、社会連携講座の充実を図る。
- 講座の開講にあたっては、広島大学マスターズ広島・広島大学マスターズの会員だけでなく、広島大学や広島地域を中心とする他大学及び産業界の協力のもと、社会人及び職業人の多様なニーズに応じて、国際社会で活躍できる人材養成を目指す「知の拠点」や知的人材育成センターの他の教育・研究プロジェクトと連携して、地域社会の発展に資する人材の育成を目標とする。

【具体的な取り組み内容】

東広島の「広島大学マスターズ」や広島の「広島大学マスターズ広島」の設立後の東広島での市民講座・出前講座、広島でのTSS文化大学・中国新聞文化センター・NHK文化センター広島教室などでの開講により把握している社会人の「学び直し」のニーズに基づき、例示として次のようなコースを開講することを提案しました。

(A) グローバル社会

1. 語学系（英会話、仏語会話、独語会話、中国語会話など）
2. 地域文化系（文学研究、思想研究、歴史研究など）

(B) 芸術文化

3. 美学・美術史系（美学研究、美術史研究、比較芸術研究など）
4. 美術教育系（美術教育研究、アートと社会研究など）
5. 音楽教育系（音楽教育研究、アジアの音学研究など）

(C) 現代社会問題とカウンセリング

6. 教育系（教育・心理、教科教育、キャリア教育、障害者教育、いじめ問題など）
7. カウンセリング系（心理カウンセリング、ハラスメント論など）

(D) 地域活性化

8. 地域社会系（地域活性化、都市景観、里山文化、地域開発、道州制など）
9. 産業振興系（観光学、ベンチャー・ビジネス、起業のすすめなど）

(E) 健康生活科学

10. 生涯スポーツ系（生涯スポーツ学、健康科学、スポーツ経営学、コーチング、運動生理学など）
11. 食品関係学（食品と食物、食品添加物など）

(F) 科学と社会

12. 環境科学系（環境地理学、地球科学、気象、地震、生態系科学など）
13. 放射能・放射線科学系（原子力時代を生き抜く放射線・放射能の科学など）
14. 宇宙科学系（宇宙学、天文学など）

(G) 技術開発

15. 情報科学系（IT、ネットワーク、プログラミングなど）
16. バイオサイエンス系（バイオテクノロジー、生命工学など）
17. マテリアルサイエンス系（超伝導、半導体、エネルギーなど）
18. ものづくり技術系（技術開発、技術の伝承など）

(H) 健康・医療・介護

19. 健康社会系（高齢者の医療・介護、予防医学、慢性疾患、医療倫理、老年学など）
20. 先端医療科学系（再生医療、生殖医療など）

(I) 平和科学

21. 平和科学系（平和と人間、ひろしま学、平和論など）

【講座開講形態】

■ 人的・物的措置

* 広島大学を退職した教職員及びそのネットワークにより、他大学と連携して、東千田キャンパスの知的人材育成センターで社会連携講座を開講する。

■ 社会人に単位や修了証・認定証を授与する講座として開講する場合

* 広島大学を退職した教職員で構成される広島大学マスターズは単位を出せる組織ではないが、広島大学マスターズに所属の教員が、広島大学の科目等履修生や、教育ネットワーク中国の単位互換履修生の受講科目を担当することになれば、受講者に単位を出すことはできると考えられることから、社会連携講座を知的人材育成センターでの大学提供のプログラムと位置づけてもらうことが出来れば、社会連携講座の受講生に単位を授与できるようにしたい。

* 社会連携講座の開講にあたっては、中国新聞文化センターやNHK文化センター等の民間のカルチャーセンターや、放送大学のプログラムと重ならないように配慮して、それらの機関で開講されていない資格の取得に繋がり、域貢献や社会貢献に資するような知識や技術などを修得できるプログラムを提供して、修了証や認定証を授与できるようにしたい。

■ 知的人材育成センターにおいて開設される社会人向け大学院の教養教育を担当

* 大学院生の視野を広げることが社会から求められていることで、知的人材育成センターで開設される社会人向け大学院からの依頼に基づき、広島大学マスターズは大学院生の視野を広げるための教養教育科目の非常勤講師を派遣する。

【開講により期待される成果】

■ 社会人及び職業人の再教育及び継続教育を考慮した学習プログラムの開発を目指すことによって、地域社会の発展に貢献する人材の育成に役立てることが出来る。

■ 国際社会で活躍できる人材養成を目指す「知の拠点」と連携することによって、国際社会の発展に貢献する人材の育成にも役立てることが出来る。

■ 社会連携講座を広島大学の学生にも開放することにより、社会人及び職業人との交流により、学生の地域社会に対する意識・関心を高めることが出来る。

(3) 学内からの応募状況

学内からは、次の9つの部局からの提案がありました。

提案者	プロジェクト事業名
社会科学部研究科（法政システム専攻）	広島医療社会科学部研究センター
法務部研究科	法律相談業務に携わる人材の育成及び継続教育
平和科学研究センター	平和研究・平和教育の拠点形成プロジェクト
総合科学研究科	「グローバル社会におけるリスクの総合科学」研究推進プロジェクト
社会科学部研究科（社会経済システム専攻）	大学院社会科学部研究科社会経済システム専攻における「環境・エネルギー・社会保障・金融問題アナリストプログラム」の設置
文学部研究科	社会人「学び直し」人文学研究拠点の構築

歯学部	国公立大学間連携による専門的食能人育成拠点の形成
財務・総務担当理事	男女共同参画・女性研究活動支援拠点
教育学研究科	子どもの学び支援に関する知の拠点形成プロジェクト

(4) 教育・研究プロジェクト事業の学内ヒアリングの開催と採択結果

平成26年3月14日（金）に提案のあった10件のプロジェクト事業についての学内ヒアリング・評価会が開催されました。「広島大学マスターズ社会連携講座」のプレゼンテーションは、プロジェクトリーダーの広島大学マスターズ広島の代表幹事の植木先生にお願いしました。陪席者として、広島大学マスターズ広島から総務・広報担当の松水幹事、広島大学マスターズから副代表幹事の原野先生、前代表幹事の金田先生に出席して頂きました。ヒアリングの評価は、学長・理事・副学長・研究科長・学部長により行われました。評価の視点としては、①社会人の受入れに繋がるプロジェクトであるか、②社会人に対して単位を授与できる教育プログラムであるか、③社会的ニーズがあるか、④大学関連携・自治体・企業等との具体的な連携があるか、が問われるとのことでした。

学内ヒアリング・評価会での審査結果を踏まえて4月15日（火）に開催された役員会での審議の結果について、東千田キャンパスでの知的人材育成センター事業を担当の河野学長特命補佐から、次のようなメール連絡を受け取りました。

「どのプロジェクト事業も評価の目安をほぼ満たしていること、幅広く取り組まなくてはならない事業であることから、10件全てを対象とし、プロジェクトを融合及びブラッシュアップして進める旨の提案・説明があり、審議の結果10件全てを対象とすることを承認した。」

広島大学マスターズと広島大学マスターズ広島が共同で提案した「広島大学マスターズ社会連携講座」が採択されましたことで、教育・研究プロジェクト事業の検討に加わっていただきました広島と東広島のマスターズの幹事の皆様に感謝申し上げます。

(5) 今後の課題

教育・研究プロジェクト事業のヒアリング終了後、マスターズの関係者でヒアリングに参加した4人で打ち合わせたことですが、大学側の知的人材育成センターの教育・研究プロジェクト事業に関する方針が、当初明確でなかったのですが、社会人の大学院教育を目標にしておられることから、われわれの社会連携講座も大学院レベルの教養教育を目指す必要があります。若い大学院生も視野が狭く自分の専門領域のことしかわからないことで、企業の即戦力にならないとの批判に応えるためにも、企業から求められている視野の広い人材育成のための大学院レベルの教養教育が必要になってきますので、マスターズの先生方の協力が是非とも必要になるのではないかと認識が大切であることを確認しました。

さらに広島大学を退職した教職員が社会人向けの教養講座を開講すると、市内のカルチャーセンターとのバッティングが起こるため、カルチャーセンターでは取得できない資格などの取得も可能なものを考える必要があるのではないかと考えられます。

またわれわれOBで可能な講座を開講しますが、われわれOB教員に現役の教員は何を期待しておられるのかを確認するアンケートも必要と考えられます。

平成28年度から事業の実施が予定されていますことから、今後具体的な実施計画の策定の段階で、マスターズの会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

3. 「広島大学マスターズ社会連携講座」の開設方針について

知的人材育成センターの教育・研究プロジェクト事業として、「広島大学マスターズ社会連携講座」の開設が採択されたことで、これまで構想の検討にあたってきた広島大学マスターズと広島大学マスターズ広島の幹事が5月10日（土）に東千田キャンパスで、今後の開設方針について協議しました。大学の方針により、変更を迫られることも予想されますが、学内ヒアリングで出された質問などを考慮して、次のような方針で今後具体案を検討していくことが了解されました。

【プロジェクト事業名】

広島大学マスターズ社会連携講座

【プロジェクトの開始時期】

平成28年4月1日

【本事業で使用するスペース】

知的人材育成センターの4Fプロジェクトルーム1室、同センター4Fミーティングルーム1室、同センター2F講義・演習室（45人収容室）1室

【プログラムの内容】

- (1) 現代社会が当面する問題（たとえば、健康科学、介護、いじめ問題、カウンセリングなど）を解決するために役立つ知識や技術などの修得に役立つ社会人向けの専門講座及び学際講座を開講し、修了証や認定証などを発行する。
- (2) 知的人材育成センターにおいて開設される大学院からの依頼に基づき、広島大学マスターズが大学院生の視野を広げるための教養教育の非常勤講師を派遣する。

【プログラムの受講見込者数】

- (1) 社会人向けの専門講座及び学際講座の1講座当たりの受講見込者数
 - ・受講見込み者数 10人
 - ・最大受け入れ（予定数） 20人
- (2) 知的人材育成センターにおいて開設される大学院からの依頼に基づき開講する教養教育の1講座当たりの受講見込者数
 - ・受講見込み者数 10人
 - ・最大受け入れ（予定数） 20人

【プログラムの運営】

現在、東広島の「広島大学マスターズ」と広島の「広島大学マスターズ広島」は、組織としては別個に活動しているが、本プログラムを運営する組織としての教員集団としては共同で運営にあたるものとする。

広島大学マスターズの組織としては、単位を出せないが、広島大学の知的人材育成センターにおけるプログラムを引き受けることで、単位や修了証や認定証を出せるものとする。

「広島大学マスターズ社会連携講座」の開講にあたっては、中国新聞文化センターやNHK文化センター広島教室等の民間のカルチャーセンターや、放送大学のプログラムと重ならないように配慮して、それらの機関で開講されていない「資格の取得に繋がり、地域貢献や社会貢献に資するような知識や技術などを修得できるプログラム」を提供する。

具体的なプログラムについては、広島大学マスターズ及び広島大学マスターズ広島の両組織の代表幹事が該当者に委嘱して鋭意検討を進めるものとする。

広島大学マスターズ広島事務局

〒730-0053

広島市中区東千田町一丁目1番89号

広島大学東千田地区支援室気付

(FAX) 082-542-6964

(E-mail) masters2@hiroshima-u.ac.jp